

# 花爛漫

訓  
英 自  
鍛 知  
錬 律



三角中ホームページQRコードはこちらです。

宇城市立三角中学校  
学校新聞  
令和4年10月12日  
編集代表  
校長 橋口 京輔

力を合わせて挑戦し、輝くことができた！

十月七日(金)、令和四年度三角中学校文化祭を開催しました。まだ今のところ、多くの地域の方々をお招きすることはできませんでしたが。保護者や学校運営協議会の方々に子供たちの発表の姿を見ていただきました。ありがとうございました。

生徒会長 山口駿くんの「自分の苦手なことで、みんなで力を合わせてチャレンジしましよ」という開会宣言から、オープニングの吹奏楽部演奏となりました。三年生が引退したため、五名だけの編成ですが、感情を込めて「ベテルギウス」を演奏しました。

インタビューしていきました。とても工夫され、わかりやすい発表でした。休憩をはさみ、合唱コンクールとなりました。各クラスの合唱は、これまでの練習の成果が表れ、とても素晴らしいものでした。審査の結果、宇城音楽会への出場は、三年二組となりました。



続いては、二年生による劇『フレンドシップ』でした。劇が進む中で、「仲間」「友達」について深く考えることができました。やはり文化祭に劇は欠かせません。二年生のチームワークのよさも感じました。

一年生の発表は「職業調べ」でした。ニュースキャスター、リポーター、コメントーターが登場し、ニュース番組のように各職場の方に扮した生徒に

## 合唱コンクール

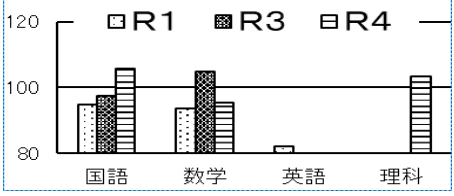


文化祭終盤は、三年生の寸劇『進路選択に向けて』と恒例の『特技発表』でした。三年生は、いろいろな高校の特徴について扮装しながらわかりやすく伝えました。特技発表は、ステージ発表に四名と一グループ、展示の部で一名の発表でした。どれも個性が発揮された素晴らしいものでした。

前期最終日に実施した文化祭では、各学年・各クラスが力を合わせて発表し、子供たちの創意工夫が見られ、とても感心しました。

## 弱点克服に取り組みよう！

～令和4年度全国学力・学習状況調査(3年生)の結果より～  
4月当初、小学6年生と中学3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度は、国語・数学・理科の学力の定着状況と、生徒質問紙による学習状況調査です。学習状況については、学校新聞9月号で述べましたので、今回は上記の3教科の定着状況についてお知らせします。



右のグラフは、全国平均を100としたときの本校過去4年間(R2は未実施)の定着状況です。本年度の各教科の状況は、国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」や「我が国の言語文化に関する事項」については良好ですが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」については力をつける必要があります。数学は、「数と式」は計算練習の成果が出ていますが、「図形」「関数」や「データの活用」の領域には課題が見られます。理科は、「エネルギー」「粒子」「生命」の領域は良好な結果でした。「地球」の領域にはやや課題があるようです。来年度は、理科に代わり英語が実施される年です。現2年生のみなさんの、これからの取組に期待したいと思います。

さて、一年間の半分が終了しました。これまで大きな事件や事故がなく、無事に前期を終えることができたことにうれしく思っています。前期を振り返ってみると、本年度もコロナ禍での教育活動を強いられしてきました。「学びを止めない」とした思いで、何をやるにも感染予防の対策を講じながらの取組。生徒

たちがしっかりと意識した学校生活を送ってくれたおかげで、なんとかここまでやってこれたのかなと思う次第です。前期の主な学校行事として、体育大会、一年生集団宿泊教室、それに中体連大会等がありました。これらの行事を通して、生徒一人一人の成長が垣間見られて、うれしく思っています。

そんな中、コロナ禍だからとして停滞、後退してしまっている取組も多々あります。「昔はこうだった」「こんなことしてた」などよく聞きます。コロナ禍前の良い取組はできる範囲で復活させ、変えたことで



今後とも、本校の教育活動に対しまして、ご理解と協力よろしくお願いたします。

## 子供たちの成長につながる取組を進めます！

校長室より

行事等の中止や内容の精選、縮小しての実施やリモート等を活用しての取り組みなどが行われてきました。

良かった取組はさらに今後につなげていくといった、これまでの取組の「反省」をしっかりと行い、後期や来年度に向けて考えていかなければと思っております。

そこで一番考えなければならぬのは「子供たちの成長のため」の取組がどうだったかです。子供たちの成長につながる取組をしっかりと考えながら実施していきたいと思っております。

良かった取組はさらに今後につなげていくといった、これまでの取組の「反省」をしっかりと行い、後期や来年度に向けて考えていかなければと思っております。